

## 令和元年度 第16回部長会（概要報告）

- ・日 時 令和2年2月4日（水）午前9時00分～
  - ・場 所 八尾市役所庁議室
  - ・出席者 市長・副市長・教育長・病院事業管理者・水道事業管理者・各部局長・理事等
- .....

### 【市長あいさつ】

市議会3月定例会につきましては、7日に召集告示の議会運営委員会が開会され、21日の本会議では、私から「令和2年度市政運営方針」を述べるとともに、令和2年度当初予算案等を提出することとなります。また、25日・26日の本会議では、各会派からの代表質問、続いて27日からの本会議では、個人質問を受けることとなりますので、各部局においては、大変苦勞をお掛けしますが、適切かつ的確な答弁が出来るよう、資料作成などを含め準備をお願いします。

さて、令和2年度市政運営方針につきましては、「市民と一緒に「幸せ」を実感できるまちづくりを進めていく」というメッセージを分かりやすく発信するため、スタイルを一新しました。また、「子ども・子育て」、「安全・安心」、「魅力・活力」の3つを最重要ポイントとして位置付けています。

まず、1点目として、「子ども・子育て」につきましては、2歳児を対象とした本市独自の「幼児教育・保育の無償化」を実施するとともに、子どもの発達や健康など、子育ての不安や悩みの一元的な相談窓口となる、（仮称）こども総合支援センター整備の本格検討に取り組むこととしています。

また、いじめからすべての子どもを守るために、弁護士等の専門職を配置する市長直轄組織として、いじめから子どもを守る課を創設するとともに、様々な理由により不登校となった児童や生徒へのフォローと早期復帰に向けた、オール八尾市による取り組みの充実を図るとともに、中学校での全員給食の実現に向けた取り組みを推進することなどを述べています。

2点目の「安全・安心」につきましては、地域共生社会の理念に基づく、様々な生活課題への包括的な支援体制による断らない相談などの取り組みを推進するとともに、校区まちづくり協議会における地区防災計画や、防災の視点を重視したわがまち推進計画の策定への支援を行うなど、防災や健康をはじめ市民と一緒に創る地域のまちづくりを推進します。

また、大阪・関西万博のメインテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿った健康づくりの取り組みを推進するとともに、保健師等の専門職による保健活動の充実を図ることなどを述べています。なお、これまで出張所等に配置していた保健師については、引上げではなく、地域での保健活動をより一層効果的に行えるように体制整備を行うものであり、誤解のないようにお願いします。

3点目の「魅力・活力」につきましては、多様な人材や企業による共創と市内企業の成長を生み出すとともに、やおプロモーション推進プロジェクトチームを設置し、新たな魅

力づくり・観光施策・情報発信を強化するとともに、広域的な連携を推進し、大阪・関西万博などの波及効果を活かした八尾の魅力発信や大阪府等との職員の人事交流を実施します。

また、市域全域の持続可能な地域公共交通に向けた制度設計に取り組むとともに、竹濑地域におけるデマンド型タクシーによる実証運行を始めることなどを述べています。

次に、3月定例会では、令和2年度当初予算案を提出しますが、その予算規模は、市全体では、2144億7981万7千円で、前年度予算（6月補正後）との比較で、41億3983万3千円の増、率で2.0%の増となっています。

一般会計では、1043億7129万2千円で、前年度予算と比較すると、25億3508万2千円の増、率で2.5%の増となっています。

特別会計については、国民健康保険事業、財産区、介護保険事業、後期高齢者医療事業、土地取得事業は、対前年度増、母子父子寡婦福祉資金貸付金は、対前年度減となっています。

また、企業会計については、病院事業、水道事業は、対前年度増、公共下水道事業は、対前年度減となっています。

一般会計における当初予算の概要ですが、主な歳入につきましては、市税・地方交付税は、対前年度で増であり、市債については、普通交付税の振り替え財源である臨時財政対策債は、対前年度で減となっています。

歳出に対する財源不足額につきましては、財政調整基金より34億円を借り入れ、対前年度1億円の増となっています。

主な歳出につきましては、人件費は、会計年度任用職員制度開始等により対前年度増、投資的経費、繰出金、補助費等についても、対前年度増となっています。

第10期実施計画に基づく重点事業については、事業費全体で約94億円、一般財源で約31億円を計上しています。

なお、歳出総額の増、約25億円の内訳としましては、経常経費で約14億円の増、投資的経費で約11億円の増となっています。

すべての市民に光があたる「新しい八尾」として、令和元年度につきましては、出張所での証明発行、届出業務の再開、子ども医療費助成の18歳までの拡充、特別職の給与・退職金の見直しなど、市民サービス向上にむけてスピード感を持って、着実に推進してきました。

令和2年度につきましては、八尾の成長をさらに加速させる年と位置づけ、2歳児を対象とした本市独自の「幼児教育・保育の無償化」を実施することから、多額の財源が必要であり、昨年度よりも財政調整基金の取崩額が増えるなど、引き続き厳しい予算編成となっています。

今後も「新やお改革プラン」に基づく徹底した行財政改革と効率的な行政運営を行うことが必要となります。「新しい八尾」への改革ができるよう、中長期の視点、聖域のない行財政改革の視点を持ち、しっかりと事務事業を再構築していただきたいと考えています。私も、皆さんの先頭に立ち、必要な財源の確保に努め、率先して身を切る改革を行うとともに、徹底した歳出の削減を行い、各事務事業をしっかりと見直し、力を合わせて、市民最優先の行政サービスを充実させていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

組織機構の見直しにつきましては、市政運営方針でも触れましたが、私の思いを改めて話させていただきます。

まず、「いじめから子どもを守る課」につきましては、いじめは、子どもの身体・生命に危機を及ぼす重大な問題であり、悪質なものは事実上の犯罪行為であると考えています。大津市での事件以降、法整備等も進み全国的に取り組みは進んでいるものの、重大事象の発生は完全には防ぎきれていないのが現状です。また、教育委員会においても、精一杯の対応をいただいておりますが、他にも様々な教育課題を抱える中、対応に限界もあるのが実情ではないかと思っています。

このことから、いじめから全ての子どもを守るとの強い決意のもと、いじめの防止や早期解決に向けて、オール八尾市として取り組む必要があると考え、市長部局に弁護士等の専門家等を配置する新たな組織を設置し、市長部局と教育委員会が連携し取り組んでいくこととしています。

次に、「やおプロモーション推進プロジェクトチーム」につきましては、近年、大阪は観光都市として世界的な認知度を高め、インバウンドの取り込みに成功していますが、八尾市においては、大阪市と隣接している都市として、立地にも恵まれ、様々な地域資源も保有しており、高いポテンシャルを秘めていると思いますが、その成果を取り込めているとは言い難い状況にあると考えています。

今後は、2025年には大阪万博が予定されており、大阪は、より一層の盛り上がり期待され、これは大きなチャンスだと考えています。つきましては、このチャンスを逃さず、まちの成長につなげるため、観光を切り口に定住促進の観点も含めた、プロモーション戦略を点ではなく面として、部局横断的に直ちに検討・着手する必要があると考え、プロジェクトチームを設置することとしたものです。

最後に、組織機構の見直しとしては表れていませんが、包括的な支援体制による「断らない相談」などの取り組みについて言及しておきます。

国（厚生労働省）においては、昨年末に、地域共生社会検討会の最終とりまとめを発表しました。高齢の親とひきこもり状態にある子どもが同居する世帯や、障害のある子どもの将来を案じる高齢者など、解決の糸口がわかりにくい課題を抱える市民が増えてきており、少子高齢化や複雑な生活課題への対応を強化するためには、人と人がつながり支え合う地域共生社会の実現が急がれています。本市においても、このことは例外ではないと考えます。この間、保健福祉部局を中心に研究を指示していましたが、先般、「保健・福祉・子どもなどの各相談機関とつながり、課題解決を目指す全世代に対応した総合相談窓口の設置」について、提案があり、地域共生社会に向けた取り組みとして、相談窓口を令和3年度から設置したいと考えています。

地域共生社会の実現に向け、引き続き、各部局が連携して具体的な制度設計を進めるよう指示しておくこととともに、部局の壁を越えて横連携を行う、いわゆる横ぐしを刺した取り組みを進めるようお願いします。

さて、本市の施策展開において、協働・連携した取り組みを行っておられる市民・団体が、先般、相次いで高い評価を得られましたので、紹介します。

まずは、1日に、アリオ八尾光町スクエアにおいて、「久宝寺デー」が開催されましたが、これは、令和元年12月に、平成21年度に始まった久宝寺寺内町まちづくり推進協議会主催の「燈路まつり」が、国土交通省が主催する「令和元年度手づくり郷土(ふるさと)賞(一般部門)」を受賞されたことを記念して開催されたものです。

また、1月には、中小企業を中心に大企業や大学、金融機関等のコンソーシアムとして設立された「みせるばやお」が、子どもから大人までの魅力発信事業だけでなく、企業支援により企業同士の連携が広がり、今後の発展性が期待できること、地域産業の最重要な支援となる「情報発信」の役割を果たし、世界的にみても、日本を代表するものづくりエンターテインメント施設であること等が評価され、総務省が主催する「令和元年度ふるさとづくり大賞・団体表彰(総務大臣表彰)」を受賞されました。

職員の皆さんには、市民・団体とともに歩む本市の姿勢を改めて認識していただき、地域のまちづくりに活かしていただきたいと思います。

最後になりますが、今年は、例年より暖かい日が多いことから、既に1月下旬より、早春の訪れを告げる「八尾若ごぼう」の名が聞こえてきました。また、新型コロナウイルスの感染が府内でも確認されており、本市においても1月27日に危機管理対策本部を設置したところです。

職員には、今年度の事務事業をしっかりとやり遂げるとともに、新年度に向けての準備を十分に整えるためにも、健康管理・体調管理には万全を期し、年度末の忙しいこの時期を乗り切っていただくようお願いします。

## 案件

### 1「令和元年度八尾市総合防災訓練の実施報告について」

危機管理監

まず、年明けの慌ただしい週末の土曜日の早朝実施にもかかわらず、多くの職員に参加・協力してもらえたことにお礼を言う。

訓練参加者については、参集訓練では、午前7時に「e革新」により2,281名に送信することで訓練を開始し、公共交通機関を使わずに、3時間以内に参集できる職員を対象として、そのうち633名が実動で参集のうえ、順次、「災害対策本部設置・運営訓練」を実施した。

また、大正小学校で実施した、「避難所開設・運営訓練」については、避難所開設員等の職員111名のほか、大正地区の住民126名にも参加いただいた。

なお、今回は訓練想定がブラインド型であったこともあり、課題や反省点もあったが、トータルで380件の想定を付与したことで、多種多様の災害対応の実施が必要となり、新たな気づきもあったことから、所期の目的は達成できたものと思っている。

この訓練の成果や課題を地域防災計画や各班マニュアルにも反映するために、訓練実施に対する意見等について提出を依頼しており、集約でき次第、改めて周知させてもらう。

**【大松市長】**限られた時間の中ではあったが、さまざまな気づきや改善点があったと思う。私自身も本部長としてさまざまな課題等を認識することができた。今回の訓練を受けて、各部局で日頃から安全安心の意識をしっかりと持っていただき、訓練内容をしっかりと総括し、それらが今後生きるようにしていただきたい。

【**轉馬副市長**】訓練全体としては良かったと思うが、反省点として、市長、副市長にあまり情報が届いていなかった部分があり、災害発生時には注意して欲しい。

【**福田病院事業管理者**】参集状況の報告が最優先であると考え。参集者数が分かれば、どのような動きができるか計画できるので、最初に参集した職員が参集者数を集計し、口頭でもいいので、トップまで上げるよう意識していくべきである。

## 2「令和元年度包括外部監査の結果報告書の提出について」

政策企画部長

今年度、包括外部監査契約を締結した田上監査人より、「高齢者福祉に関する事務の執行について」を監査テーマとして、包括外部監査が実施された。

去る1月27日に、監査の結果に関する報告と、あわせて組織及び運営の合理化に資するための意見が、同監査人から提出され、すでに関係する各部局に配付するとともに、共通ライブラリへも掲載したところである。

監査の実施に際し、対象となった所管部局には、資料の作成・提出、ヒアリング等の協力についてお礼を言う。なお、指摘数としては、添付の概要版資料のとおり、監査の【結果】として18件、【意見】として66件があった。

なお、この報告内容については、監査委員より公表されるとともに、市政だより4月号においても報告書の概要が掲載される予定である。

今後の本市の取り組みとして、外部監査制度が地方公共団体の行財政運営に資することを期待して導入された趣旨を踏まえ、提出された意見についての分析、検討を行い、今後の行財政運営に反映できるよう努めていく考えである。

また、今回の指摘内容については、他部局の事務にも共通する内容が含まれていることから、他部局においても情報共有のうえ、今後の適切な事務執行をお願いする。

<発言は特になし>

## 3「令和2年度組織機構の見直しについて」

政策企画部長

令和2年度における組織機構については、市政運営方針に示された成長戦略の推進、及び、その下支えとなる行財政改革の推進、並びに、この間の組織機構の見直し以降に政策課題が顕在化したもので、早急に課題解決を図る必要があるものについて、見直しを実施するものとしたところであり、この間、各部局のヒアリング、及び、行財政改革推進本部における議論等を進めてきたところである。

その検討の結果として、「八尾市行政機構新・旧比較表」に示すとおり、令和2年度の組織体制としては、17部局95課16室154系の組織体制となるものである。

また、今回の見直しにおいて新設する組織の中で、特に大きなものとして、「いじめから子どもを守る課」の設置、及び「やおプロモーション推進プロジェクトチーム」の設置がある。

まず、「いじめから子どもを守る課」については、市長直轄組織として、弁護士や臨床心理士等の専門職を配置し、当事者双方への相談や支援体制の充実等により重大事象の未然防止を図る仕組みを強化するとともに、市長部局と教育委員会が連携し、オール八尾市として

「いじめから全ての子どもを守る八尾づくり」を推進するために設置するものである。なお、同課の設置にあたっては、市長の直近下位の組織として、事務分掌条例に規定する必要があることから、同条例改正議案の議決が前提となっている。

次に、「やおプロモーション推進プロジェクトチーム」については、本市の観光施策についてさらなる強化が必要であるとの課題認識から、幅広い分野にまたがる地域資源について、他市連携など広域的な観点や、分野横断的な観点から活用方を検討し、新たな展開につなげるとともに、これら観光施策と移住定住につながる施策等をあわせ、まちの成長につなげるための戦略的なプロモーションの展開手法の検証・確立について、組織横断的かつ総合的な連携・調整を図りながら進めるため設置するものである。

その他の変更箇所については、新旧対照表にて確認をお願いする。

なお、令和3年度の組織機構の見直しについては、今回の見直しの際に合わせて確認をしたところであるが、現在策定を進めている次期総合計画の内容も踏まえ、次年度に改めて詳細な検討をさせてもらうので、協力についてお願いする。

**【大松市長】**いじめから子どもを守る課については、徹底してやっていただきたいと考えている。また、やおプロモーション推進PTについては、これまで魅力発信に関して点の動きしか見えなかったが、それらをつなぎ合わせて面で八尾市全体の魅力を発信してほしい。新たなPTが中心となって魅力発信を進めていくことになるが、PTに任せきりではなく、各部署が所管する魅力を集約しながら、全体的なマネジメントをしていきたいと考えているので、協力をお願いする。また、魅力大使からも協力を申し出ていただいているので、しっかりと連携して、取り組んでもらいたい。

#### 4「消防記念日式典の開催等について」

消防長

今年度は令和2年3月8日午前10時30分から11時30分まで、八尾市文化会館小ホールにおいて開催する。内容については、昨年と変更はなく、自主防災組織、市内事業所（優良防火対象物）等への表彰等となっている。なお、新型コロナウイルスの発生状況等により中止することも考えている。

また、先月実施した消防出初式は、土曜日開催に変更したことに伴い、来場者の減少を懸念していたが、当日は天候にも恵まれ、例年同様に来賓や市民等合わせて1,383名の来場者があり、事故も無く予定どおり進行することができ、市民に八尾市の消防力を披露することができた。市長を始め多くの市幹部にも来場してもらい、この場を借りてお礼を言う。

<発言は特になし>

#### 5. その他案件

##### 1「第67回成人式実施報告について」

こども未来部長

令和2年1月13日に八尾市及び八尾市教育委員会の主催により、本年度の成人式を八尾市立総合体育館にて開催した。各課から122名の業務応援により、無事終えることができ、この場を借りてお礼を言う。

対象者は、平成11年4月2日から平成12年4月1日までに生まれた2,893名、当日の参加人数は2,002名で、69.2%の参加率となった。

今回の成人式においても、記念冊子、パスポートを配布させていただいた。成人式当日は、周辺道路にもできるだけ渋滞や混乱をおこさないことなどを特に注意して実施したところ、退館後に混乱はあったものの、滞りなく式典を進行することができた。

今後も、18歳成人の課題等があるが、より良い成人式にしていくため、改善・工夫を重ねていきたいと考えている。

**【轉馬副市長】** 参加人数は例年と比べてどうか。

**【新堂こども未来部長】** 参加率については、平成30年度は64.4%、平成29年度は71.6%であり、昨年度は会場変更の影響もあり、若干減少となっていたが、今年度は69%で例年並みであった。